

■源氏物語講座

八宮の留守中、薫は宇治を訪れ、大君と中君とをかいまみ

日 時:11月14日(土) 13:30～15:00
講 師:伊井 春樹(当館名誉館長)

■特別展「伊予松山城」関連講座

四国の城郭石垣

日 時:10月4日(日) 13:30～15:00
講 師:楠 寛輝氏(松山市教育委員会主幹)

屏風や絵図から読み解く松山城の歴史

日 時:10月18日(日) 13:30～15:00
講 師:井上 淳(当館学芸課長)

三之丸跡の発掘調査成果 ～門と土塁を中心に～

日 時:10月24日(土) 13:30～15:00
講 師:西村 直人氏(松山市教育委員会副主幹)

松山城三の丸と松山藩主の菩提寺を巡る

バスツアー

日 時:11月7日(土) 9:00～17:00(予定)
講 師:井上 淳(当館学芸課長)
場 所:松山市堀之内、常信寺
参加費:7,000～8,000円程度(予定)
締 切:10月9日(金)

松山城下町について

日 時:11月22日(日) 13:30～15:00
講 師:井上 淳(当館学芸課長)

■考古講座

人と暮らしてきた馬

日 時:10月3日(土) 13:30～15:00
講 師:三浦 彩(当館学芸員)

■民俗講座

鬼の金剛 ー村を守る境界神ー

日 時:12月19日(土) 13:30～15:00
講 師:十亀 幸雄氏(砥部町文化財保護審議委員)

■体験講座

天体望遠鏡を作って天体を観よう!

日 時:10月24日(土) 15:00～19:00(予定)
講 師:近藤 菜美子氏、高橋 智子氏(愛媛県総合科学博物館学芸員)

壁画アートを描こう

日 時:10月31日(土) 13:30～15:00
講 師:上田 球乃氏(TAMANO ART CLASS)

明日から人に見せられる皿回し

日 時:11月23日(火・祝)
10:30～12:00 / 13:30～15:00(2回開催)
講 師:松葉川 健一氏(サーカスアーティスト)

高知県立歴史民俗資料館 企画展

「長宗我部元親の城づくり」を見に行こう!

バスツアー

日 時:12月12日(土) 9:00～17:30(予定)
講 師:松田 直則氏(高知県立歴史民俗資料館副館長)
場 所:高知県立歴史民俗資料館ほか
参加費:8,000～9,000円程度(予定)
締 切:11月13日(金)

受講時のお願い ▶ 講座の写真撮影、録画・録音はご遠慮ください。

申込方法 ▶ 当館HPの講座申込フォーム・お電話からお申し込みください。

お問い合わせ ▶ 企画普及グループ・歴史文化講座係 TEL (0894) 62-6222 FAX (0894) 62-6161

展示スケジュール

2026.10-2027.3

2026
10特別展(企画展示室)
伊予松山城 城郭・御殿・城下町
テーマ展(考古展示室)
馬 人と暮らしてきた動物
日本在来馬「野間馬」愛媛県指定天然記念物指定記念
テーマ展(文書展示室)
鳥になって、お城へー吉田初三郎とめぐる空の旅ー
2026年9月19日(土)～11月23日(月・祝)

▶開館記念日イベント 11月15日(日)

12

2027
1▶新春イベント2027
2027年1月2日(土)・3日(日)

2

特別展(企画展示室)
江戸時代 四国遍路の旅ー「遍路日記」の世界ー
テーマ展(考古展示室)
古墳 de アートー松山平野の古墳をアートするー(仮)
テーマ展(文書展示室)
おひなさま
2027年2月20日(土)～4月5日(月)

3

常設展
えひめの歴史と文化
新常設展
密●空と海ー内海清美展

ご利用案内

開館時間 9:00～17:30(入館は17:00まで)

休 館 日 月曜日(下記カレンダーをご参照ください)

観 覧 料

	常設展(常設展+内海清美展)		新常設展(内海清美展)	
	一 般	団 体	一 般	団 体
大人(高校生以上)	700円	580円	340円	280円
小・中学生	無 料	無 料	無 料	無 料
65歳以上	400円	330円	200円	170円

※特別展の観覧料はその都度定めます。 ※団体は20名以上です。
※未就学児は無料です。
※テーマ展をご覧いただくには、常設展示観覧料が必要です。

Museum Calendar 2026.10-12

イベント 休館日

10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5		
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31		

愛媛県歴史文化博物館
MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE管理運営:指定管理者 いよてつ総合企画
〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2 電話:0894-62-6222
【ホームページ】 <http://www.i-rekihaku.jp>

●発行日 令和8年8月31日 ●編集/発行 愛媛県歴史文化博物館

愛媛県歴史文化博物館

No.127

歴博だより

Museum of EHIME History and Culture News

伊予

Iyo-Matsuyama Castle

松山城

城郭・御殿・城下町

令和8年 9月19日[土]～11月23日[月・祝]

開館時間 9:00～17:30(入場は17:00まで)

愛媛県歴史文化博物館
MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE

〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町 4-11-2 0894-62-6222 i-rekihaku.jp



観覧料:大人(高校生以上)650円(500円)、65歳以上400円(350円)、小・中学生400円(350円)

※未就学児無料 ※()内は20名以上の団体料金 ※ほかに常設展・新常設展・特別展共通券もあります。

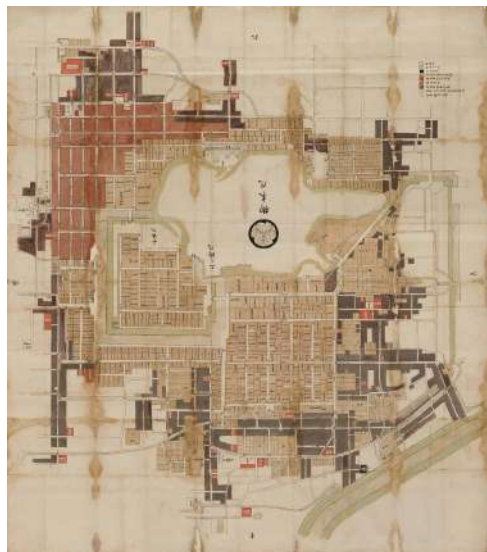
休館日:9月24日(木)、28日(月)、10月6日(火)、13日(火)、19日(月)、26日(月)、11月4日(水)、9日(月)、16日(月)

主 催:愛媛県歴史文化博物館 後援:愛媛県市町教育委員会連合会・愛媛新聞社・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・愛媛CATV・ケーブルネットワーク西瀬戸・八西CATV・西予CATV・宇和島ケーブルテレビ・FM愛媛・FMがいの

歴史

まつやまじょう か まち か えい ず 松山城下町嘉永図

年 代：嘉永6～7 (1853～54) 年頃
法 量：縦203cm×横179cm
所 蔵：個人蔵・当館保管



松山城下町嘉永図の景観年代は、東町奉行と西町奉行の屋敷に記された藩士の在任年から、嘉永6 (1853) 年からその翌年に絞られます。本丸・二の丸・三の丸御殿の城郭部分は空白で、本丸中央に江戸時代後期から松山藩主久松松平家が家紋として許された葵紋を据えています。一方、武家地・町人町などの城下町については詳しく描かれており、絵図作製の目的が城下町の把握にあったことは明かです。

絵図で注目されるのは、朱色の○印で「橋御上綱」が図示されていることです。朱色の○印は、道路上の各所に梯子のような記号とともに描かれています。「綱」には塞ぐや閉じ込めるという意味があるので、排水溝が道路を横切る際に石を被せて蓋にしたところに梯子の記号を付けたものと思われる。朱色の○印の多くは武家地の道路にあります。町人地には梯子の記号はあっても○印は見当たりません。○印は藩が費用負担して維持

した橋を示すものと見なせます。梯子の記号に着目することで、大量の雨に備えて、城下町に整備された排水システムを知ることができます。

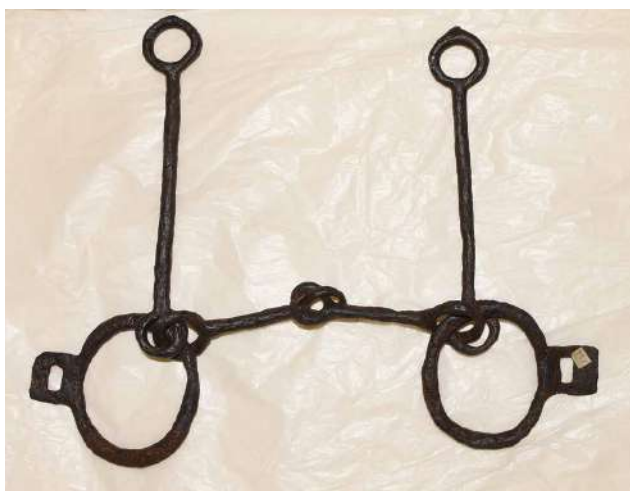
(学芸課長 井上 淳)

※松山城下町嘉永図は、特別展「伊予松山城 城郭・御殿・城下町」で展示します。

考古

いたじょうたちぎき そ かんかがみいたつきつわ 板状立間素環鏡板付轡

出土地：猿ヶ谷2号墳 (伊予市)
年 代：古墳時代後期 (6世紀中頃)
法 量：鏡板内径約6cm
所 蔵：当館蔵



馬は、5世紀頃に大陸から朝鮮半島を経由して日本列島へ持ち込まれたとされています。生き物である馬の痕跡は、遺跡にはなかなか残りません。当時の人々にとって馬がどのような存在だったかを考えるヒントとなるのが、古墳から出土する馬具です。

本資料は、伊予市にある猿ヶ谷2号墳に副葬されていた鉄製の轡です。轡は、馬をコントロールするために欠かせない馬具で、馬の口に噛ませる銜 (はみ)、銜を固定する鏡板、手綱を付ける引手から構成されます。本資料は鏡板が輪の形をしており、板状の突起 (立間) がついています。立間は紐を通して馬の頭に装着する部位です。轡があることは、馬の存在を示すとともに、乗馬が行われていたことも意味します。

この形状の轡は大陸にはなく、国産の馬具であり、シンプルな形状からは実用的な轡であった可能性も考えられます。この轡は6世紀頃から古墳の副葬品によくみられるようになり、この頃馬が日本に定着したことが伺えます。

本資料が出土した猿ヶ谷2号墳は、墳丘規模39mもの前方後円墳で、大刀や装飾的な馬具も出土しており、被葬者は有力者であったと考えられます。馬具が古墳に副葬されていることは、馬が権力と結びつく存在であったことも示しています。

(学芸員 三浦 彩)

※板状立間素環鏡板付轡は、テーマ展「馬 人と暮らしてきた動物」で展示します。

テーマ展

鳥になって、お城へ — 吉田初三郎とめぐる空の旅 —

2026 年

9月19日 (土) ～11月23日 (月・祝)

会 場：文書展示室

観覧料：常設展観覧料が必要です

この一枚が、旅のはじまり。

今よりも旅することが特別だった時代。鳥瞰図絵師・吉田初三郎は、人々の「行ってみよう」という気持ちをかき立てる鳥瞰図を描いた。その鳥瞰図には、独特な構図と豊富な情報が共存し、唯一無二の作品となり、今も我々を楽しませてくれる。

本展では、大正・昭和期に刊行された全国の観光リーフレットから、初三郎が描いたお城に注目してみたい。空から見渡す景色の中で、お城はどんなふう描かれているのだろうか。



吉田初三郎「大正広重物語」(当館蔵)

テーマ展

馬 人と暮らしてきた動物 日本在来馬「野間馬」愛媛県指定天然記念物指定記念

2026 年

9月19日 (土) ～11月23日 (月・祝)

会 場：考古展示室

観覧料：常設展観覧料が必要です

馬は古墳時代に日本へ持ち込まれ、以降家畜として人と暮らしてきた身近な動物です。馬は交通、運送、農業など、生活のさまざまな場面で重要な役割を担うとともに、その存在は信仰や文化の中にも息づいてきました。本展では骨や古墳の副葬品、絵巻や民具、写真など多様な資料を通して、馬と人が築いてきた関わり的一端を紹介します。



大成の道と駄賃馬 村上節太郎氏撮影 昭和33 (1958) 年

開館記念日イベントのご案内

11月15日 (日)

11月15日は全ての展示が無料でご覧いただけます。毎年大好評の「どんぐりマルシェ」も開催いたします。南予地方の特産品や手作りのかわいい雑貨が大集合！皆さんぜひ歴博へお越しください。



友の会よりお知らせ

入会特典

- ①各種展示が無料もしくは割引価格でご覧いただけます。
- ②ワークショップに割引価格でご参加いただけます。
- ③博物館「刊行物」を割引価格でご購入いただけます。

10月1日以降の入会金について

10月1日より友の会にご入会いただく場合は会費が半額になります。18歳以上の個人会員の場合、3,000円→1,500円です。

会員の資格は、会費を納入した日から、その年度の3月31日までです。ぜひこの機会にご入会ください。

お問い合わせ：友の会事務局 TEL：0894-62-6222